

## 「肝炎マッピング」のバージョンアップに関する研究

研究代表者又は研究分担者 渡邊 英徳 東京大学大学院情報学環教授

### 研究要旨

本研究の目的は、肝炎治療の情報を提示する「肝炎マッピング」をバージョンアップし、多様化するユーザのニーズ・端末での閲覧に対応させることである。研究期間中に両立支援のための絞り込み検索機能を実装し、多様な端末で動作することを確認した。また、今後の開発に向けたワークショップを実施した。

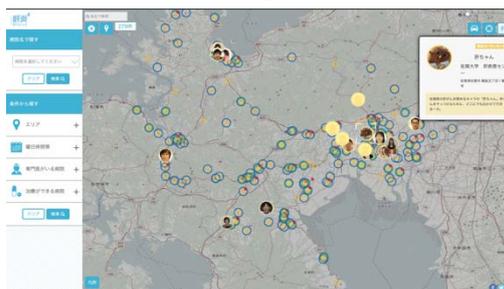
### A. 研究目的

佐賀県内における肝炎治療の情報をわかりやすく提示する「肝炎マッピング」をバージョンアップし、多様化するユーザのニーズ・端末での閲覧に対応させることを目的とする。

### B. 研究方法

筆者らは、2017年度までに「肝炎マッピング」を開発・公開し、運用してきた。このコンテンツはウェブ公開されており、PCあるいはスマートフォンで閲覧可能となっている。閲覧するユーザの属性は多岐多様でありそれぞれのニーズに応じたコンテンツを提供する必要がある。本研究期間においては職業従事者を対象とした「両立支援」のための絞り込み検索機能を実装した。地図を表示する基幹ソフトウェア「Cesium」は月に一度バージョンアップされ、新機能が追加されるほか、API Key が変更されるため、コンテンツ側で対応する必要がある。また、特に Android 端末の多様化は著しく、さまざまな画面サイズ・端末性能に対応させる必要がある。本研究期間においては、入手可能な端末とエミュレータを用いた動作確認を実施した。

図1「肝炎マッピング」



### C. 研究結果

「両立支援」のための絞り込み検索機能、マップ本体の表示機能がともに、多端末で問題なく動作することを確認した。

### D. 結論

「肝炎マッピング」をバージョンアップし、多様化するユーザのニーズ・端末での閲覧に対応させることができた。よって本研究の目的を達成することができた。インターフェイスの改良・追加機能の実装についてのワークショップも実施しており、研究期間終了後も運用・改良を施していく予定である。

## **F. 研究発表**

1. **論文発表** なし

2. **学会発表**

渡邊英徳：「記憶の解凍」：資料の“フロー”  
化とコミュニケーションの創発による記憶  
の継承；HCG シンポジウム 2019, 広島県情  
報プラザ, 2019 年 12 月 12 日

## **G. 知的所有権の取得状況**

1. **特許取得** なし

2. **実用新案登録** なし

3. **その他** ウェブサイト公開済み：

<https://kanen.mapping.jp/>